

身体症状症

「どんな病気でも、専門医に診てもらいたい」というひともいる。そこでできれば、医者の方も楽なのだが……。

35歳のY子さん。「だいぶ前から全身がだるい。手足がしびれる。頭が重い」という多彩な訴えだ。整形外科で、頸椎のMRI（磁気共鳴画像）の検査をしたが、異常はなかったという。「きっと頭の病気に違いない」と、夫と一緒にオロオロになっている。

だが、診察しても、症状を説明できる身体の異常はない。頭MRIにも異常はない。血液検査でも異常はないのである。となれば、Y子さんの病気は、「身体症状症」ではなかるつか。

身体症状症とは、以前は身体表現性障害と呼ばれた。ストレスが体の症状になって現れている病気のことである。患者さんは、深刻な身体の不調を訴える。だが、身体のごとを調べても異常はみつからないのだ。ということとは、Y子さんの手足のしびれなども、こころが作りだした身体の症状というようになる。

よく話を聞くと、とうやら、あのコロナが諸悪の根源らしい。夫がテレワークになって、毎日家の居ることがひどいストレスになっているようである。

身体症状症は、精神科か心療内科が専門の病気である。だが、とういうわけか紹介するのを断られた。整形外科でも同じことを言われたという。が、どちらの科も、予約を取るのに苦労するほど混んでいるらしい。で、経過が悪ければ紹介することにした。が、経過は良好で、Y子さんの身体の症状は軽くなった。

開業医というのは、症状の程度や患者さんの都合によっては、専門外の患者さんでも診なければならぬ。いつまで経っても勉強することがなくなる。うれしいような悲しいようなストレスだ。もちろん、そんな程度のものであれば、身体症状症にはならない。

（石黒修三 しいしへろクリニック・脳神経

外科専門医・7/26 北國新聞掲載）